
僕とスーパーと先見の明

月島 真昼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕とスーパーと先見の明

【Nコード】

N9053H

【作者名】

月島 真昼

【あらすじ】

ある土曜日の学校帰り、僕は昼食に弁当でも買おうかとスーパーに訪れた。

学校帰りに昼食に弁当でも買おうかと僕はスーパーを訪れた。

本当はラーメンでも食べに行きたかったのだが友達の都合が合わなかったのだ。近場のラーメン屋が潰れてしまっていることも災いだった。彼さえ息災ならと別れを惜しんで見た。

……僕の話はどうも脱線しがちでいけない。スーパーの話に戻る
としよう。僕が用があるのは左手の惣菜や弁当の売り場のはずなの
につい右側から回ってしまうのはスーパーの魔力だろうか？ いや、
レジを挟んだ向かい側にあるから遠いだけと言えばそこまでだが。

生鮮食品には何の用事もない。などと言いながら一本50円の缶
コーヒーを掴む。生鮮食品の近場に置いてあったが加工品なので許
して欲しい。好きな銘柄ではないが別段悪くもないので飲み物はこ
れに決めた。

途中でジャムパンを見掛けて手を伸ばしかけたが初志貫徹し弁当
のほうへ向かう。

一目見た感想は、なんじゃこりゃ？ だった。

値段は変わらないのにコンビニ弁当の方が美味そうだ。これだか
ら大型量販店は。勝手に売れると怠けて努力することをしないから
小売店に敗北するんだ、と日本経済を勝手にうれいてみた。

しかし弁当類はほんとにパツとしない。一瞬だけ一本50円の焼
き鳥に目を奪われかけたが温める手間を考えて泣く泣く別れを告げ
て見た。そういえば彼らは売れ残って廃棄されるのが幸福なのか赤
外線照射により水分子を沸騰させられ胃に納まるのが幸福なのか、
既に原材料は生命を絶たれているしどっちにしろ最終的には灰にな

り土にでも還るのだからどっちでもいいかと日和見しておいた。

お、これにしよう。お好み焼きと焼きそばのセット。レジは目の前だがふとチョコレートが食べたくなってレジのお姉さんが身構える前に左折する。目の前に広がった世界は酒の売り場だった。店員さんが品物を揃えていた。少し、気まずい。

スナック菓子を1つ掴んでレジに通す。はたして30秒前にチョコレートを所望していた僕はどこへ行ったのだろうか。

「お箸は入り用ですか？」

と、女性にしては身長の高い店員さんが訊ねて来た。あれ？ 僕ってたしか180ちよつと足りないくらいはあるよな？ ヒールでも履いてるのか？ 仕事中に……？

いかん、寄り道し過ぎた。本題に戻ろう。制服姿の僕の何処を見ればお箸は入り用でないんだろうか？ 底意地の悪いことを考えながらも口から出たのは至って平凡な「はい」と愛想笑いだった。残念。貰った袋と学生鞆を抱え直して僕はスーパーを出た。軽く周囲を見渡して学校のやつらが居ないか確かめる。どうやら杞憂らしくベンチを1人で2人分ほど占有しているおばさんから更に2人分、おばさん換算では1人分のあいだを開けてベンチに腰掛ける。喉が渴いていたが僕はコーヒーよりも先に弁当に手をかけた。コーヒーに手をつけるとそのまま飲み干してしまい弁当を食べたあとで苦しむ公算が高いからだ。先を見通すのは重要な力である。

先がわからないから人間って宗教だとかにハマったりする訳だからね。

人間は死ぬ。それは回避不能だ。なのに嘆くし怒るし悲しむ。そんなことはわかってる、なんて言ってるやつは悟りきった賢人のフリをした愚者だ。

死は重い。だからこそとりあえず価値がある。なんて、自身の真

実を誰かに押し付けてみる。世界は誰かと同じではないのだ。

僕が美味い以外の何かであると感じる焼きそばとお好み焼きを美味いと胃に納まる人間も居るように。

……よく弁当の話からここまで飛躍させたなあ

(後書き)

意味なしおちなしくだらなし

月島 麻痺るでしたm ((m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9053h/>

僕とスーパーと先見の明

2010年10月20日06時42分発行